

町家合宿 in 京都 10年前の夏の陣

～大学見学とまちなか観光～

山下桂永子

京都の町家に泊まるのは初めてだったので、到着するまで、どんな所だろうと
思っていました。町家は広くて、思っていたよりキレイで泊まっている間も居心地が良く、
ベリーナイスでした。

1日目のスケジュールを決める時、京都のパンフを見ていて、千手観音像がならんでいる
三十三間堂を見て「めっちゃ行ってみたい」とか思っていたら行くことになって、まあラ
ッキーでした。夕食の手巻き寿司はとてもおいしくて、色々な具の組み合わせをためして
みたりして、意外なおいしさを発見したり…。

銭湯は人生で初めてでした。いい湯で銭湯もいいもんだな、とか思ったり。

2日目は北野天満宮へ行って、お参りをしたり店を見てまわったりして。 学問の神様、
たのみます。

立命館大学はケタちがいの広さで、多分1人で歩いてたら迷うだろうなとか思いました。
うちの高校の何百倍ですか？みたいな感じで。学食はかなり安いねだんで、けっこうポリ
ュームのあるものが食べられるのがうれしいところ。すごくおいしかったー

古着屋の服選びは、目的の服をさがすのが大変で、予算以内におさまる服がなかなか無
くて、2件目でみつけました。服選びで疲れはてていた。

京都駅で服チェンジ(?)で集まったときは、自分がけっこう普通の感じの服だったか
ら逆に目立ってるんじゃないかと思いました。不思議な集団だったんだろうな。京都の夜
景はとてもきれいでした！

3日目はまず三十三間堂に行っておどろき。ひとつひとつの千手観音像が神々しく、本当
に「神様」って感じで、感動でした。こういう美しいものこそ日本の宝だと思いました。

次に清水寺へ行き、胎内めぐり。真っ暗で何も見えなくて、変に不安な気分になった。
すずしかったのはちょっとうれしかったかもしれない。

清水寺のすぐよこにある地主神社は、一回行ったことがあって、10ヵ月後くらいになん
かあったんで、また10ヵ月後になにかあるかもしれませんよ？

昼食のオムライスオリジナルな味がおいしかったです！

今回、京都の色々な所を見ることができて、とてもいい思い出になりました。ほとんど
の方が初対面だというのに優しくしてくれて、3日間楽しくすごせました。ありがとう

ございました！！

これは、約10年ほど前、高校1年生Bくんが参加した第1回町家合宿の感想文である。



☆なぜ町家で合宿？

町家合宿とは、(元)不登校であったり、(元)ひきこもりであったりする10代後半から20代前半の参加者とともに、京都市内の町家に泊まり、観光や大学見学などを行っているものである。

京都の町家とは、京都独特の格子窓、虫籠窓(むしこまど)や土間、坪庭などの造りを備えた伝統の家屋である。木と土で組まれたその空間は「うなぎの寝床」と呼ばれ、奥に長い。暑さをしのぐ工夫はされているものの、快適さを追求した現代の家屋とは違い、家の中にふすまはあっても扉もなければ鍵もない。テレビ、パソコン、エアコンもない(電気とガスは通っている)。今や常識の「チン」とか「ピッ」など指先だけでは何も動かない世界である。(あ、電子レンジは確か10年前はなかったけど今あります) そういったちょっと不便な世界は、現代の都市に生きる人たちにとってもはや「非日常」であるのかもしれない。そんなちょっと非日常の空間の中で、普段家で過ごすことの多い(元)不登校や(元)ひきこもりのみんなで作りを、みんなで食べ、風呂に入り、おしゃべりなんかしたりしなかったりして、寝たり寝なかったりする、いつも家でやっているような日常を体験する、それがいいんじゃないかと思ったわけである。これが思いっきり非日常の海やら山やらだと、感動や気付きもわかりやすいかもしれないが、それだと不登校やひきこもりであったりする人が、参加するのに心理的なハードルが高そうだし、(私もそんなの得意じゃないし) そんな大自然じゃなくても地域や場所の資源を生かして、ちょっとだけ「非日常」を設定して、ちょっとだけ新しいことをしてみれば、なんかふんわりした気付きやじんわりした感動があったりするんじゃないだろうか。

今回はそんな私の目論見と仕掛けを、実際には町家合宿の参加者がどう感じていたのか、Bくんの感想文に沿いながら紹介していきたい。

☆Bくんについて

Bくんと私の出会いは、Bくんが中学校1年生のころである。Bくんは小学校高学年から不登校になっていて、中学校1年生の冬から筆者が勤務するA市の適応指導教室に通うようになった。その後、中2、中3とほぼ皆勤で適応指導教室に通ってきて、高校は通信制高校(通学は週に2回程度)に進学した。

Bくんの性格は、とてもまじめでおとなしい。と、当初は思っていた。適応指導教室に通い始めたころは、スタッフや他の子がおしゃべりしているのをニコニコしながら聞いているものの、Bくん自身は話をすることはほとんどなく、とても静かに過ごしていて、1日に1回、Bくんの声が聞けるか聞けないかぐらいだったと記憶している。Bくんはカードゲーム(UNOやトランプ)が得意なのであるが、当初は「パス」と言葉で言わずに、手で机をなでるように場を流す仕草をしていた。しかし徐々に話もできるようになり、おとなしい雰囲気は変わらないが、時折ボソッと冗談を言ってみたり、ひょうきんな動作で、周囲を笑わせるようになっていった。どこか飄々としていて、時折言うシュールな突っ込みは、私にとってはたまらなくおもしろかったし、Bくんが他の子の言動に、笑いをこらえて口を

手で押さえる仕草も印象に残っている。時には適応指導教室にゲーム機とカセットをリュックサックに背負って家から持ってきてくれて、みんなで遊んだりもした（Bくんは対戦ゲームがめっちゃめっちゃ強かった）。勉強にも熱心で、適応指導教室ではコツコツとドリルやワークブックに取り組み、特に数学は得意で、それまでの遅れを一気に取り戻すかのように、1学期間で1年分のドリルを仕上げていることもあったので、数学の苦手な私は感心しきりであった。

町家合宿の参加について、お母さんからの話では、その時期のBくんは、進学したばかりの高校にはほぼ休まずに登校しているようだったが、不安は感じていて、町家合宿後に数年ぶりの運動会が控えており、プレッシャーを感じていた。そんなころに私からの町家合宿の案内を受け取って、Bくんはかなり悩んだらしい。それでもBくんが町家合宿に参加した理由は、「大学がみたい」ということだった。

☆町家の生活体験

Bくんは、感想文で「町家に行くまではどんな所だろうと思って」いて、町家の生活を「ベリーナイス」と言っている。テレビがなくてもパソコンがなくても、ゲームがなくても夏の猛暑の中でエアコンがなくても「ベリーナイス」なのである。まったくその通りだと私も思う。今でこそ、参加者のほとんどがスマホを持っていたりするわけだが、10年以上前は、まだ携帯を持つ中高生はほとんどいなかった時代である。それでも思ったよりも快適だった（苦痛ではなかった）のだろう。それには、案内チラシに「クーラーはなく、扇風機でがんばりましょう！」などという、私からの少々猛暑（当時、日中は35度ぐらい）への脅しが入っていたせいもあるのかもしれない。Bくんが初めての銭湯にも挑戦し、見知らぬ地元の方々々と肩を並べて身体を洗い、大きな湯船につかることに気持ちよさを感じてくれたことは、「緊張するだろうなあ、嫌がるかなあ」なんて思っていた私の心配を吹き飛ばしてくれた。町家には普段あるものがいろいろない。普段あるものがないと不安だけれど、実際には、あれば便利だけれど、なくてもそれほど困らなかった、ということかもしれない。

修学旅行も行っていない（ことの多い）町家合宿の参加者にとって、どんな所に泊まるのか、どんな人たちと泊まるのか、何があって、何がないのか、不安だらけでしかないのかもしれない。しかも案内チラシには「宿にはバスタオル、シャンプー、歯ブラシ、寝巻きはありません。その他必要と思うものを持参してください」とあるだけである。そこには、「自分のことは自分で決める」という、町家合宿で一貫して私が参加者に求め続ける援助的かつ過酷な要求が、もう参加する前から始まっているからなのであるが、Bくんにとっても町家合宿参加への不安は強いものだったようである。リピーターも多い町家合宿であるが、初回参加者と二回目以降の参加者の荷物量の差は歴然である。旅行の荷物の多さは、不安の強さに比例するのかもしれないと思う今日この頃である。



町家概観と坪庭

☆合宿スケジュールを決めるためにやっていること

町家合宿 1 日目にはやることはいくつかある。まず駅の改札についたら、①今日の夕飯は何にするか決める。町家についたら、②どこの部屋で寝たいか決める。(と言っても好きなどころに自分のカバンを置いて来てと指示を出すだけ。リピーターだけが知っている、比較的涼しいところ、蚊の襲来に合いにくいところ、お気に入りの風景など。それぞれ吟味しながら荷物を置いてくるがもめたことはない) その後、お互いの自己紹介として、③名刺を作り交換する。そして、これが一番大事な④明日以降のスケジュール決定である。

町家合宿では、スケジュールを事前に決めていない。どこに行きたいか(京都市内は 1 日バス乗り放題 500 円)、何を食べたいか(一食 500 円程度で)を自分で決めなければ、何も始まらない。そしてスケジュールが決まったら何時に寝ようが起きようが自由である。

1 日目夕方(寝る前まで決めかねている子もいるが)に行く、スケジュール決定では、用意していた京都のガイドブックやパンフレット(最近ではスマホ検索も)などを参考に、自分が行きたい場所を提案してもらい、行程を決めていく。

10 年前は、あまり参加者から積極的な意見が出なかった中、B くんは、パンフレットから見つけた写真を、唯一見知っている私にそっと見せることで、自分の行きたい場所を表明してくれた。最近の町家合宿ではそういった、意見が出にくい状況を踏まえ、「いってみたい、やってみたいことランキング in 京都」という用紙を作って参加者に渡して、みんなの中で意見が言えなくても、紙に自分のやってみたいこと、行って見たいところを第 3 位までを決めてもらい、(行きたいところがなければ白紙でも可) 私に提出してもらおうという形式を取っている。

そんなわけで B くんは三十三間堂の千手観音の写真を見て、行って見たいと思っていたら「行けてラッキー」なんて書いてくれているわけだが、他の参加者の意見があまり出なかったのも、B くんが写真を見せてくれたのは私のほうこそラッキーだったわけである。参

加者の意見が一つも出なかったら、結局スタッフ主導のスタッフが見せたい場所を見せるだけになってしまい、「参加者が自分で決める」という私の目論見は、初の町家合宿の初日から大はずれになってしまっていたらう。



1日目の夕方、名刺交換の後はスケジュールを決め、その裏側ではスタッフが夕食作り

☆大学見学について

Bくんが町家合宿に参加したのは「大学をみたい」という理由があった。どこに行くかは特に希望がなかったようで、それならば、2日目に北野天満宮（その日は蚤の市が月に1度開かれる日）に行く予定を入れて、そこから行きやすい立命館大学に見学しようということになった。というのは建前で。立命館大学は私が当時在学中のもっとも案内しやすい場所である。いかにいきあたりばつりのスケジュールでも、右も左もわからない大学にいきなり中高生連れで忍び込むことには、私自身に不安がありすぎたため、この年は仕込みであったことを10年越しに告白させていただく。ボランティアで大学4回生の女性が案内をしてくれたこともあり、いろいろな教室や研究室に入った（忍び込んだ）り、図書館に入らせてもらったり、入試広報課でボールペンをもらったりした。

Bくんはとても熱心に見学をしたり、ボランティアの方のお話を聞いていて、受け取った大学案内もかなりの分量であったが、嫌がることもなく、家まで持って帰っていた。感想文からは、学食で安く（Bくんが食べたのはおかずバイキングにデザートをつけて500円以内）おなかいっぱい食べられるということや、教室、大学の敷地の大きさに圧倒されていたようである。頭だけでなく、身体いっぱい使って、大学という場を感じてくれたのだなあと思う。

大学見学は進学を考えている子にも考えていない子にも、比較的好評な企画である。学食を体験してみたり、教室を見学してみたりする中で、ちょっと未来の自分や、この道に

進んでいたかもしれない自分に触れるような体験になっているのではないだろうか。この年は結局大学はひとつしか見学できなかったのだが、Bくんがリピーターとして参加したときの希望により、その後は、できるだけ2日目と3日目に、ひとつずつ大学を見学できるようにしている。

☆Bくんの服チェンジ（古着交換）

古着交換については、また別の機会に詳しく書かせていただこうと思っているが、町家合宿のある意味（裏の）メインイベントである。古着屋で、ペアになった相手の服を制限時間と制限金額内で買うというもので、毎年かなり盛り上がる。Bくんは普段はモノトーン系のTシャツにジーンズなどのシンプルなスタイルであったが、そのときは、ボランティア学生の方に、柄がエッフェル塔に大きなりボンというかなり派手目な薄紫のTシャツを選んでもらっていた。それでも自分がむしろ地味で逆に目立ってしまうぐらいに感じていたとは驚きだが、その分、私も含めた周囲が醸し出していた、ど派手で不思議な集団の雰囲気を感じ取っていただければ幸いである。そして、自分が派手かどうかよりも、集団になじんでいるかどうかを気にしていたBくんの繊細さを、私は10年前に一ミリも気づいていなかったことには反省である。

☆Bくんの行きたかった場所

Bくんが、そっと写真を指差して、私に「ここにいきたい」と伝えてくれた場所は、三十三間堂である。お堂の中に1000体の千手観音が並んでいるのは壮観である。私も初めて行ったときは、絶句したことを覚えている。おしゃべりな私が絶句したのであるから、普段から物静かなBくんはどうなるか、、、？実は残念ながら私にはあまり記憶がない。女子同士で、「あの観音さんは、和田アキ○に似ている」だの、「こっちは石原○純に似ている」だので盛り上がっていたことしかあまり覚えていない。Bくんの感想文はたった二行ではあるけれど、Bくんが本当にびっくりして「神様」って感じて、日本の宝だとまで感じていたということが、じわじわと、でも力強く伝わってきて、記憶にはないけれど、あのときのBくんの姿を想像しながら私もじわじわと感動してしまう。行きたいところに行ったBくんの感動は、10年越しにも私に感動を届けてくれている。

☆Bくんの町家合宿と私の町家合宿 10年前の夏の陣

Bくんの感想文には、慣れない場所や人に対してすごく緊張してしまうBくんが、初対面の人たちだらけの中、緊張しながらも楽しんでくれていた様子が書かれている。ちょっとだけ「非日常」の世界で、慣れない人たちの中で、初めてのことをたくさんして、そこで得た参加者のおどろきや感動が、私にも多くのおどろきや感動を与えてくれている。それが10年間町家合宿を続けてこられた原動力なのかもしれないと、今回10年前を振り返りながらこの文章を書いてみて、しみじみ思う機会となった。

初期の反省を生かして、最近スケジュール決めで使っている用紙

いってみたいやってみたい ことランキング in 京都

1位

2位

3位

当時の案内チラシ（当時は町家合宿ではなく「京都にホームステイ」と言っていました）

京都にホームステイ2泊3日

～大学見学と京都まちなか観光～

日時:平成18年〇月〇日(〇)～平成〇年〇月〇日(〇)

参加費:〇〇〇円(宿泊費、食費、交通費、観光費、保険費用を含みます)

宿泊先:〇〇〇

☆京町家を改修して宿として利用している建物です☆

冬は寒く、夏は暑い京都ですが、町家の中は夏を涼しく過ごす工夫がされています。

というわけでクーラーはなく、扇風機でがんばりましょう!

スケジュール

1日目

14:00 阪急大宮駅改札集合。徒歩で宿へ移動。

14:20 宿泊地「胡乱座」到着。

14:30 オリエンテーション

15:00 宿チェックイン

15:30 自己紹介と今後の予定を決めるお話。

17:00 夕食の買出しと調理開始

18:30 夕食

20:00 入浴(宿にお風呂はないので徒歩5分の銭湯へ。シャワールームはあります。)

2日目

起床～ みんなで決めたスケジュールで大学見学と京都観光

17:00 夕食の買出しと調理開始

18:30 夕食

20:00 入浴

3日目

起床～ みんなで決めたスケジュールで大学見学と京都観光

14:00 解散

持ち物:宿にバスタオル、シャンプー、歯ブラシ、寝間着はありません。(小さなタオルは用意して
くださっているそうです)

必要と思うものを持参してください。

大学見学と京都観光のプランは

- ☆立命館大学…北区にある衣笠キャンパス。入り組んだたくさんの建物の名前は全部漢字です。初めて行く人は標識がないとあるけないかも…。
 - ☆同志社大学…京都市中心部のキャンパス内にある 5 つの建物は国の重要文化財にしていされているそうです。
 - ☆金閣寺…立命館大学から徒歩 10 分。自然豊かな場所に金色の建物というコントラストが素敵です。
 - ☆京都御苑…同志社大学目の前。京都御所を包むように広がる国民公園です。
 - ☆北野天満宮…学問の神様をまつる通称「天神さん」。毎月 25 日には「天神市」というのみの市が開かれます。
 - ☆鴨川…京都市内を縦断する鴨川。「かもっとく?」「かもる?」と言って京都の学生は鴨川の水辺を散策したり、座ってぼーっとしたり、本を読んだりするんです。
 - ☆雑貨屋・古着屋・カフェ…学生の町だからか、意外に京都は多いんです。雰囲気も値段も様々。掘り出し物がみつかるかも…。
- などいろんなプランを出しあいながら、みんなで話し合っ決めて。希望があればどんどん出してくださいね。

申込書

「京都にホームステイ 2 泊 3 日」に申し込みします。

〒 -

住所 _____

電話番号 _____

緊急連絡先電話番号 _____

参加者氏名 _____

印 _____

保護者氏名 _____

印 _____